

医療との連携で地域支援力の向上に期待

基調講演『いま、精神保健福祉士がやるべきこと』
特定非営利活動法人じりつ 代表理事 岩上洋一 氏

我々は、
関係性を醸成するのが仕事

平成29年11月3日、4日に三県合同による初の学術集会が開催されました。これまでは、基幹研修①を三県合同で開催してきました。また、精神保健福祉士としての実践を振り返る機会として各県では毎年、研修会を実施しているところですが、基幹研修でつながった三県のネットワークをより一層広げていくために、各県の研修担当者が中心となり、実行委員会を作り、開催に至ったところです。第1回学術集会の基調講演は、特定非営利活動法人じりつ、一般社団法人全国地域で暮らすネットワークの代表理事で、内閣府障害者政策委員や厚生労働省精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業広域アドバイザー委員長を務められている岩上洋一氏をお招きし、『今、精神保健福祉士がやるべきこと』について講演いただきました。自身の地域での実践を中心に、現在の制度・政策の意味合いや今後の方向性を実際の精神保健福祉士が直面する現場に即して解説していただきました。これまで、精神保健医療福祉の分野では、クライエントの人生を本人以外が決めてきてしまった歴史がある。クライエントが自分自身の「○○したい」を言えるようになかなかわりや支援を、精神保健福祉士がするべきことであるとお話いただきました。長期入院者の解消のみならず、私たちのソーシャルワーカーが一人ひとりの思いにどこまで寄り添えるのか、今まさに問われているのではないのでしょうか。



参加型講演でPSWの使命について参加者に語りかける岩上洋一氏

（青森県 波田野隼也）

【編集】北東北三県PSW実行委員会一同
【発行】平成30年1月26日

シンポジウム
地域移行、地域生活支援を考える
～精神保健福祉士の役割の再考～



コーディネーターの石田賢哉氏と
コメントの岩上洋一氏
シンポジウムでは、基調講演に引き続き、岩上洋一氏をコメントとして、新たに青森県立保健大学准教授の石田賢哉氏をコーディネーターにお招きし異なる立場の3名がシンポジストとなり、精神保健福祉士の役割の再考について話し合われました。行政の現場からは、青森市の取り組みを中心に青森市役所の波田野隼也氏から市立浪岡病院の超長期入院（10年～48年）の退院支援について4事例が紹介され、退院阻害要因の多くは、支援者側の退院に対する否定的な思い込みが問題と語られました。医療機関の現場からは、盛岡市にある未来の風せいわ病院の早坂香織氏から地域移行機能強化病棟における退院意欲喚起プログラムの取り組みを通して民間病院の中で起こった患者さん、ご家族、職員の様々な変化について語られました。地域支援の現場から



は、湯沢市にある障害者総合支援事業所松風の柴田聡氏が地域の中でその人らしく生活していくためにも、安心して失敗できるように、地域ネットワークを強化し支援の質の向上と標準化を進めたいとの思いが語られました。岩上洋一氏からは、「素晴らしい地域移行、地域生活支援を実践されていて、もっとと全国アピールしてほしい」と、北東北三県の取り組みに高い評価を示されました。（岩手県 藤原隆之）

分科会① 精神保健福祉士の業務

「分科会①は「精神保健福祉士の業務」をテーマとして精神保健福祉士業務指針委員、会委員である浅沼充志氏より『業務指針及び業務分類第2版』



実践報告をする佐々木俊彦氏と
沢田嘉代子氏

について解説していただき、実践報告では佐々木俊彦氏が精神保健福祉士の業務指針を活用した院内での研修の取り組みを、沢田が悩んでいる事例を報告しました。事例について皆さんと業務指針を確認したことで

分科会② 権利擁護

権利擁護をテーマに実践報告をいただきました。社会復帰調整官の下野共致氏からは医療観察法における権利擁護の視点について、地域で成年後見人として活動している高橋岳志氏からは、後見人としてのかかりから考える権利擁護について、医療機関の精神保健福祉士の



実践報告をする鈴木あゆみ氏、高橋岳志氏、下野共致氏

鈴木あゆみ氏からは、日々の業務を振り返り、今後の権利擁護を意識したかわりについて報告をいただきました。参加された方それぞれが日々の実践を振り返り、自らの実践における権利擁護の視点を点検する貴重な機会となりました。



懇親会は、大いに盛り上がりました「来年もやるぞ～！！」

支援のあり方が見えるようになり、特に悩んだ時の振り返りの重要性を再確認しました。（秋田県 沢田嘉代子）

（青森県 竹内一貴）